

何よりの御贈り物。  
深謝致します。

美由緒、舊き友と  
後らまほしく。



**見** よ！ 大宇宙は呻きつつあるではないか。悩みつつあるではないか。凡ては罪の故である。不従順の故である。我等は如何にしても、この大宇宙を、ありし日の新鮮さと、朗さと、光明と、希望と、平和と、諧調との樂園に回復せねばならぬ。そしてその道は唯一つである。而かも、その回復は、第二の創造は、既に始まつてゐる。私にも既に始まつてゐる。蟲けらのやうな私の中にも既に始まつてゐる。諸君の中にも既に始まつてゐる。既に始まつたからには、神の熱心は、必ず之を成就し給ふであらうことを私は信ずる。

我は汝らの衷うちに善き業を始め給ひし者の、キリスト・イエスの日まで、之を全うし給ふべきことを確信す。

とパウロが言ふ通りである（ピリピ一の六）。

渾沌たる宇宙と人生とを見て、我等は失望する。しかし、「終は始の如くなるべし」と言ふ、若し我等がイエスに倣うて、従順の生涯を生きまた死ぬるならば、必ずやありし日の幸福と平和とが地上に臨むであらう。

友よ、我等人間と生れし甲斐には、神の子と稱するからには、この光榮ある大事業に馳せ参じようではないか。人生は短かい。今日といふ日は直ぐに消え失せる。我等は人間らしく、クリスチャンらしく生きようではないか。我等は人生を享樂するために生れたのではない。仕事をする爲に生れたのではない。ただ信ずる爲に生れたのである。否、我等は死ぬる爲に、他のため十字架を負うて死ぬる爲に、生れたのである。

（塚本虎二氏輕井澤講演の一部）